

研究助成実施報告書

助成実施年度	2020 年度
研究課題（タイトル）	里山の構築環境を維持管理する「ちょこっと仕事」に都市住民が参加する新しいコモンズのかたち
研究者名※	塚本 由晴
所属組織※	東京工業大学大学院 環境・社会理工学院 建築学系 教授
研究種別	研究助成
研究分野	都市建築史、都市と文化
助成金額	150 万円
発表論文等	

※研究者名、所属組織は申請当時の名称となります。

() は、報告書提出時所属先。

大林財団 2020 年度研究助成実施報告書

所属機関名 東京工業大学 環境・社会理工学院
申請者氏名 塚本 由晴

研究課題	里山の構築環境を維持管理する「ちょこっと仕事」に都市住民が参加する新しい コモンズのかたち
<p>(概要) ※最大 10 行まで</p> <p>本研究は、里山構築環境の維持管理をするために日常的に行われている都市からは見えない「ちょこっと仕事」に都市住民や移住者が参加できる都市農村交流を通して、都市と農村をまたいだメンバーシップによる新しいコモンズのかたちを提案するものである。都市住民であっても、食やエネルギーの生産、住む場所の確保を自ら当事者として担うことができる都市と農村の間の相互補完的な関係を目指す。そこで、「ちょこっと仕事」への参画、都市農村交流の事例調査、「ちょこっと仕事」を含む都市農村交流の拠点整備、集落全体の構築環境維持のための山林整備、「ちょこっと仕事」の発信ための方法及び技術の調査、習得、実践を行った。</p>	

1. 研究の目的	(注) 必要なページ数をご使用ください。
<p>都市からは見えないが里山構築環境の維持管理をするために日常的に行われている「ちょこっと仕事」を含む里山仕事を見える化することで、都市住民が普段から里山環境の維持管理に参加し、生活基盤を広げる手がかりをつくったのが前年度の研究成果であったが、現在、都市住民と「ちょこっと仕事」をはじめとする農村の仕事を実際につなぐ方法がない。そこで、本研究では「ちょこっと仕事」へのアクセシビリティについて検討することで、都市と農村をまたいだメンバーシップによる新しいコモンズのかたちの提案に繋げる。</p> <p>まず、「ちょこっと仕事」に自ら参画し、調査を行う。また、都市農村交流の事例を調査することで「ちょこっと仕事」に都市住民が参加する方法を検討する。さらに「ちょこっと仕事」の拠点整備や発信を行うことで都市住民が参加し易い環境を構築する。</p> <p>これらを通じて、都市住民が自分の空いた時間に「ちょこっと仕事」にアクセスできる仕組みを構築し、都市と農村の間の相互補完的な関係を見出すことで、食やエネルギー、住む場所の安全保障も担っていくような、新しいコモンズのかたちの萌芽を捉え、それらをさらに発展させる方策を提示することを目的とする。</p>	

2. 研究の経過	(注) 必要なページ数をご使用ください。
<p>1: 「ちょこっと仕事」への参画</p> <p>1-1: 「ちょこっと仕事」の種類の拡充 「ちょこっと仕事」の追加調査を行った。</p> <p>1-2: 棚田オーナー制度への参画</p>	

前年度に引き続き棚田オーナー制度に参画した。

2: 都市農村交流・移住の事例調査

2022年2月5日～6日に千葉県いすみ市と匝瑳市のスタディツアーへ参加し、都市農村交流の現場、移住者の現状調査を行った。

3: 拠点「古民家したさん」の整備

3-1: ウッドデッキ WS、風呂、外ニッチ

都市住民や移住者が「ちょこっと仕事」に参画し易いように都市農村交流の拠点である「古民家したさん」を整備するために、2021年5月～6月にウッドデッキ、2021年5月～7月に風呂及び脱衣所、2021年7月に外ニッチの建設を行った。

3-2: 薪の生産と利用

山林整備を通じて出た薪を保管するために2022年1月～2月に薪小屋、里山のエネルギー生産の実践として2022年2月に薪ストーブの建設、設置を行った。

4: 「ちょこっと仕事」の発信

4-1: フィルミング WS

里山の構築環境とそれを維持する担い手やその暮らしを撮影し、都市農村交流を促進するための活動の発信を目的とし、2021年6月～8月に「古民家したさん」とその周辺の棚田等にてフィルミングWSを開催した。ワークショップ期間中に習得した撮影の知識や技術を生かし、更なる発信を行うスキルを身につけることで都市農村交流を支える発信を行う予定である。

4-2: ちょこっと仕事カレンダー

一般社団法人「小さな地球」コミュニティーメンバー向けに「ちょこっと仕事」カレンダー作成を行った。

4-3: あわたび

2022年3月12日～13日に開催されたあわたびに参加し、調査・取材を行い、「ちょこっと仕事」を発信するための方法及び技術を調査、習得、実践した。

3. 研究の成果

(注) 必要なページ数をご使用ください。

1: 「ちょこっと仕事」への参画

1-1: 「ちょこっと仕事」の種類拡充

前年度までにアーカイブ化していた「ちょこっと仕事」に、山林整備の一環で、「玉切り」、「薪割り」、農業土木的な仕事として、「ボラ穴塞ぎ」が今年度の追加調査によって加わった。「玉切り」とは樹木を輪切りにすること、「薪割り」とは玉切りされた丸太を薪割り機や斧を使用して割ること、そして「ボラ穴塞ぎ」とは田んぼの水の重量に耐えきれず決壊してしまった土手を塞ぐことである。「ボラ穴塞ぎ」は伐採した杉を使用した。



玉切り



薪割り機を使用した薪割り



ボラ穴塞ぎ

1-2: 棚田オーナー制度への参画と取材

「ちょこっと仕事」である草刈り、田んぼの準備、田植え、草取り、稲刈り等を通じて、棚田の管理及び、棚田オーナー制度へ参画した。前年度と比べ、「古民家したさん」の管轄する棚田が増えたことで、棚田の管理への計画性が求められた。

2: 都市農村交流・移住の事例調査

2022年2月5日～6日に千葉県いすみ市と匝瑳市のスタディツアーへ参加し、SOSA project、ブラウنزフィールド、MITOSAYA 薬草園蒸留所、Green+畑付きエコアパートを訪問した。SOSA projectは一人一人の自給力を高めるプログラムを実施しているNPOで「my 田んぼ」と呼ばれる田んぼの貸し出し制度や大豆栽培と太陽光発電を同時に行うソーラーシェアリング事業などを行っている。ブラウنزフィールドは料理家中島デコ氏の運営するレストラン・カフェ・宿泊施設の点在するフィールドで、オーガニック食物をテーマにしたワークショップも多く開催している。MITOSAYA 薬草園蒸留所は元々薬草園だった場所に蒸留所を建て、薬草や果実を使ったユニークな蒸留酒を作っている。Green+畑付きエコアパートは里山賃貸住宅で、ファミリー向けのメゾネットと隣接する庭を貸し出している。

都市農村交流参加者や移住者と食物やエネルギーを自給自足する活動を通じて、自立した生活を推奨するプロジェクトの姿勢を汲み取ることができた。



SOSA project



ブラウنزフィールド



MITOSAYA 薬草園蒸留所



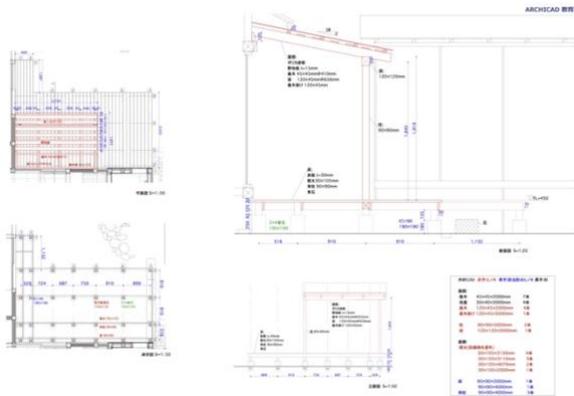
Green+畑付きエコアパート

3: 拠点「古民家したさん」の整備

3-1: ウッドデッキ WS、風呂、外ニッチ

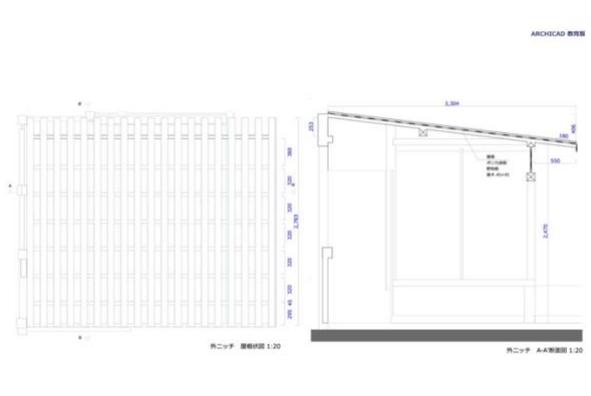
2020年7月に「古民家したさん」の改修が始まり、2021年4月からコミュニティキッチン、2021年7月からゲストハウスとして共同管理・利用するなかで、「ちょこっと仕事」の後に汚れた服を洗濯して干す場所や、滞在中に体を洗ったり疲れを癒すための風呂が必要であることがわかった。そこで、2021年5月～2021年6月にウッドデッキWS、2021年5月～2021年7月に風呂、2021年7月に外ニッチの施工を行なった。都市住民や移住者が「ちょこっと仕事」に参画し易いように「古民家したさん」を都市農村交流の拠点として整備し、洗濯機置き場と干し場が一体になったウッドデッキと脱衣所及び風呂を増築した。また、コミュニティキッチンで作った食事を楽んだり、「ちょこっと仕事」の合間に外ニッチで一休みできるようになった

ことで「ちょこっと仕事」のアクセシビリティを高めることができた。



ウッドデッキ平面図

ウッドデッキ断面図

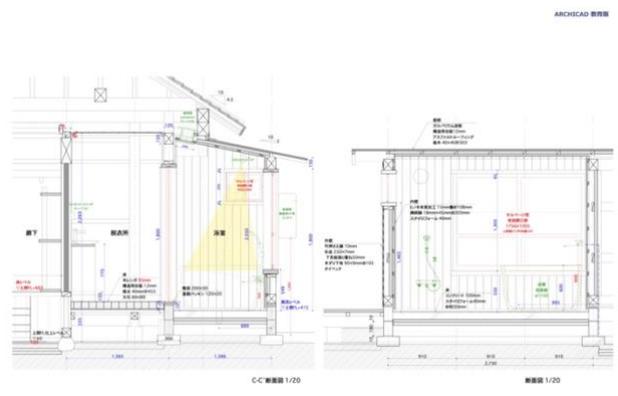


外ニッチ屋根伏せ図

外ニッチ断面図



風呂平面図



風呂断面図

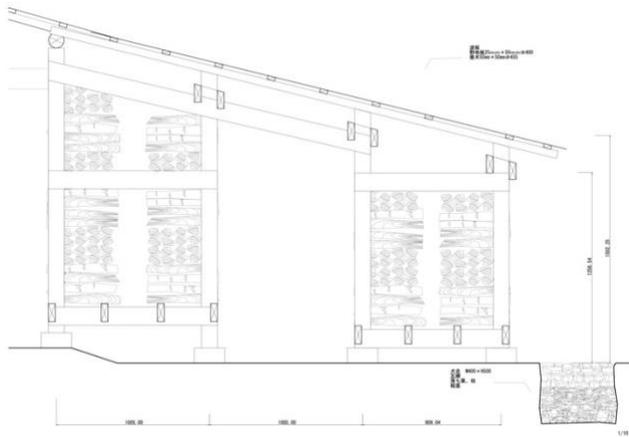
3-2: 薪の生産と利用

「古民家したさん」に隣接する邸宅の敷地の樹木を伐採する必要が生じたため、釜沼集落に在住する元林業従事者からチェーンソーの使い方を学びつつ、樹木の伐倒、「玉切り」を行った。また大量に手に入った丸太をエネルギー源として活用するために薪小屋を増設し、薪ストーブを設置した。

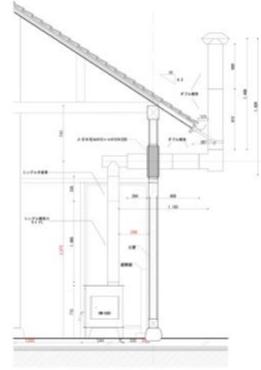
2022年1月～2月に薪小屋を、2022年2月に薪ストーブを施工した。薪小屋は薪を乾燥させ、保管するために地面から浮かせ風通しの良い設計とした。薪小屋の完成と薪割り機の購入に伴い、「ちょこっと仕事」として丸太を「薪割り」して薪を大量に獲得した。その薪を利用するために、薪ストーブをコミュニティキッチンの中に設置し、キッチン利用者が周りを取り囲んで冬に暖を取り、調理することが可能になった。

樹木の伐倒は、暮らしの一部である暖を取り食事を作るためのエネルギーとなる薪の生産と山林整備の連関が浮かび上がる実践であった。

また、「古民家したさん」の宿泊者は薪ストーブを使用する際に薪割りという「ちょこっと仕事」を楽しく体験している。



薪小屋断面図



薪ストーブ断面図



薪ストーブ平面図

4: ちょこっと仕事の発信

4-1: フィルミング WS

2021年6月～8月に「古民家したさん」とその周辺の棚田等にてフィルミングワークショップ（以下フィルミングWS）を開催した。

サンパウロを拠点に活動している建築写真家から撮影機器の原理及び撮影方法のレクチャーを受けた。棚田周辺で行われる草刈りの様子、人々の暮らしの実践と伝統知が創り出した古民家を作り出す美しい光と影の移ろい、米の収穫に備えたすがい縄作り、「古民家したさん」での都市住民と農村住民の交流や生活の動画撮影を通じて撮影を行い、技術を習得した。

里山の美しい風景の背後にはそれを維持する仕事とその担い手が存在する。里山の風景を維持するには、一人では行いきれない多大な仕事があるが、それらは都市住民の意識外にある。フィルミングWSでは里山の構築環境を維持管理する「ちょこっと仕事」とその担い手を撮影することで「ちょこっと仕事」の見える化を行った。今後、撮影した動画を発信することで都市農村交流を促進することができるだろう。



機材説明



ディレクション



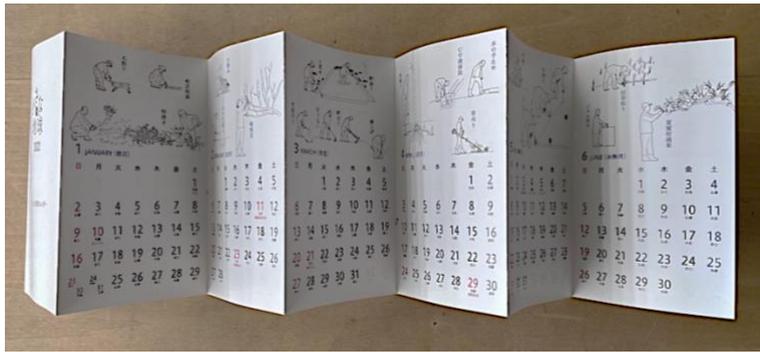
撮影準備



撮影した写真

4-2: ちょこっと仕事カレンダー

一般社団法人「小さな地球」コミュニティメンバー向けにちょこっと仕事カレンダーを作成した。各月に行う「ちょこっと仕事」をイラストで紹介することで、里山から離れて暮らしている都市住民も、現地の状況がイメージしやすくなった。またカレンダーという媒体で「ちょこっと仕事」を見せることで、どの時期に里山に行けばどんな「ちょこっと仕事」に参加できるのかがわかる。ちょこっと仕事カレンダーは都市住民の「ちょこっと仕事」への理解、アクセシビリティの向上に繋がる。



小さな地球 ちょこっと仕事カレンダー

4-3: あわたび

2022年3月12日～13日に開催されたあわたびに参加し、調査・取材を行った。

1日目は午前「ちょこっと仕事」(棚田横の野焼き準備)をし、午後は「苗目」にハーブ園見学、昼食にはるんたの弁当、夕食は刺身を食べた。2日目は早朝のヨガから始まり、レモンの収穫体験の後に豆腐朝食を食べ、「ちょこっと仕事」(野焼き)を行った。道の駅みんなみの里を見学したのち、昼食はじろえむの卵焼きランチ、最後にハウス・モンクビートでプチコンサートを鑑賞し、旅を振り返った。地域の食事をいただきながら、都市住民が「ちょこっと仕事」に参加している様子を調査し、「ちょこっと仕事」へのアクセシビリティを高める方法として、里山ツアーという手法が選択肢に加わった。



「ちょこっと仕事」野焼き



「苗目」見学



早朝ヨガ

4. 今後の課題

(注) 必要なページ数をご使用ください。

今年度は当事者として「ちょこっと仕事」に参画し、都市農村交流の調査、拠点整備、活動の発信を行うことで、都市住民が「ちょこっと仕事」に参画する方策について考察した。一方で「古民家したさん」の改修によりゲストハウスが完成し、宿泊客が「ちょこっと仕事」に参加する機会が増えた。コロナ禍でリモートワークが常態化した人にとっては家族で逗留しながら、仕事を行うワーケーションの場として里山は絶好のロケーションである。しかし、ゲストハウス「古民家したさん」は24畳の大広間での相部屋の運営を基本としており、リモート会議など静かな環境が必要な際には余計な気を使わなければならない。利用者からも個室があればより長期的に滞在してワーケーションができるとの要望が出ている。

来年度はワーケーションし易い環境を整えることを目標に、タイニーハウスの先行事例のフィールドサーベイと設計を行い、地域内外の人が参加できるワークショップ形式で施工を行う。タイニーハウスを建設することで、都市住民の「ちょこっと仕事」へのアクセシビリティをさらに高める方策の可能性と課題を整理する。